

1 令和7年度の質問調査の結果（岐阜県）から見えてきたことは何でしょうか？

児童生徒質問調査及び学校質問調査には、学習指導要領や生徒指導提要等で述べられている、「このような児童生徒を育成したい」という願いが込められている質問が多くあります。とりわけ、児童生徒質問調査によって、当該学年児童生徒の学習と生活の状況について、その特徴や傾向を読み取ることができます。

（1）授業改善に関する取組状況

授業の中で、児童生徒が自らの学習を主体的に調整できるように工夫しましょう。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（％）		
			岐阜県（R7）	全国（R7）	全国との差
小	31	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	25.4	26.3	▲0.9
中	31		22.6	18.9	3.7
小	32	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	31.1	29.0	2.1
中	32		31.6	23.4	8.2
小	33	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	28.1	28.7	▲0.6
中	33		25.3	20.2	5.1
小	35	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	40.9	40.9	0
中	35		41.7	35.1	6.6

※ R5までは「自分の考えを深めたり、広げたりする」という文言

「授業で工夫して発表していた」「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」「学んだことを生かしながら考えをまとめていた」等、「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている児童生徒は、**小学校では全国平均とほぼ同等ですが、中学校では、全国平均より高いことが分かります。**

主体的な学習の調整

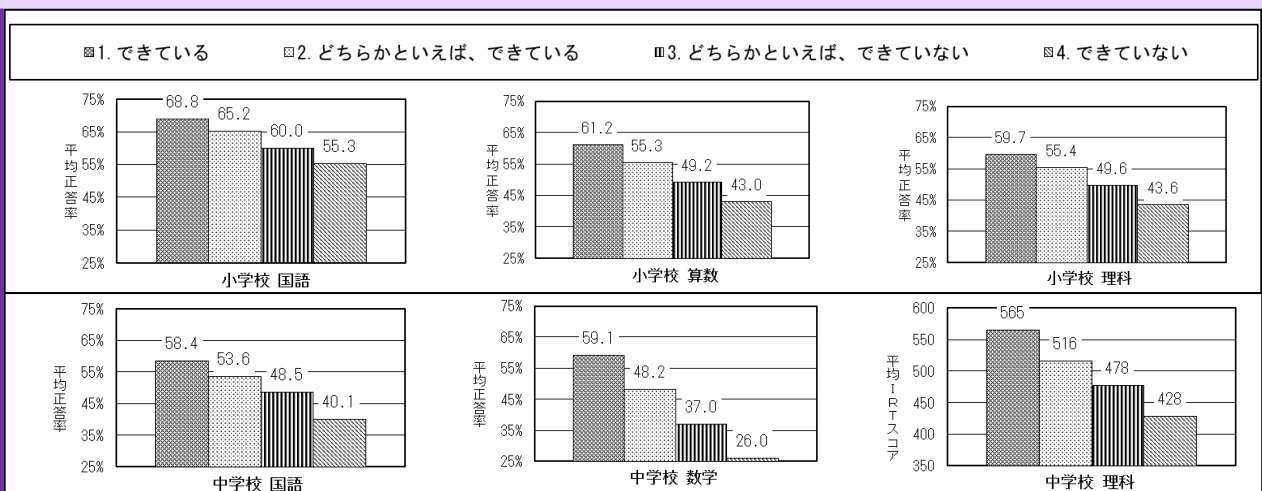
小	16	分からないことやよく（詳）しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	35.3	32.6	2.7
中	16		33.8	27.4	6.4
小	36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	31.7	31.2	0.5
中	36		27.8	23.0	4.8

主体的に学習を調整できていると考える児童生徒は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。主体的に学習を調整できていると考える児童生徒の方が、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

「主体的な学習の調整」×「平均正答率」

分からないことや詳しく知りたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔児童生徒質問16〕

クロス集計



学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、児童生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることが求められています。**資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことが重要です。**

また、普段の授業の中で、児童生徒が自らの学習を主体的に調整できるようにするために、**学習方法を自己選択したり、自らの学びを振り返ったりする機会**を確保しましょう。



(2) ICT を活用した学習状況

児童生徒がICTを活用することに自信がもてる環境づくりをしましょう。

ICT 機器の活用頻度

校種	質問番号	質問項目	「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R7)	全国 (R7)	全国との差
小	28	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	57.9	46.7	11.2
中	28		73.1	53.2	19.9

ICT機器の活用頻度に関して、「ほぼ毎日」使用していると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。特に、中学校においては、ほぼ毎日使用している生徒の割合は7割を超え、全国平均を約20ポイント上回っています。

ICT を活用する自信

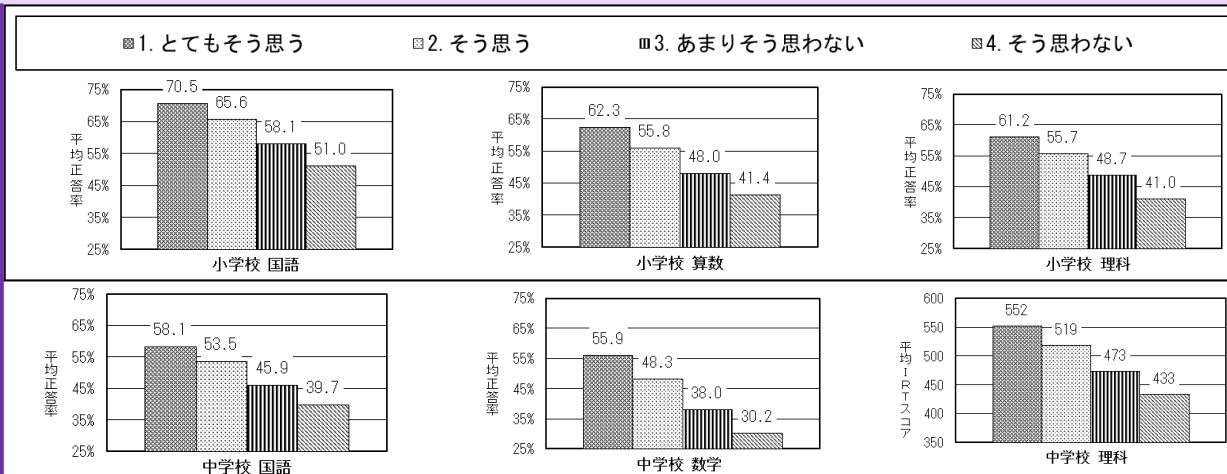
校種	質問番号	質問項目	「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R7)	全国 (R7)	全国との差
小	29	(1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると感じますか。	35.6	39.3	▲3.7
中	29		41.1	36.4	4.7
小	29	(2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると感じますか。	50.0	50.6	▲0.6
中	29		55.0	48.4	6.6
小	29	(3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると感じますか。	25.7	26.9	▲1.2
中	29		26.7	21.1	5.6
小	29	(4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると感じますか。	35.1	38.6	▲3.5
中	29		36.8	31.8	5.0

ICT機器を活用する自信に関して、小学校では全国平均をやや下回っていますが、中学校では全国平均より高いことが分かります。ICT機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

「ICT を活用する自信」×「平均正答率」

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると感じますか。〔児童生徒質問29(1)〕

クロス集計



探究的な学び

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R7)	全国 (R7)	全国との差
小	31	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	25.4	26.3	▲0.9
中	31		22.6	18.9	3.7
小	33	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	28.1	28.7	▲0.6
中	33		25.3	20.2	5.1

ICT機器を活用する自信がある児童生徒ほど、「授業で工夫して発表していた」「学んだことを生かしながら考えをまとめていた」等、探究的な学びに取り組んだと肯定的な回答をしている傾向が見られます。



学習指導要領解説(総則編)では、「情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である」と示されています。

また、情報活用能力は、児童生徒が「コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得る」「情報を整理・比較する」「得られた情報を分かりやすく発信・伝達する」「必要に応じて保存・共有する」といった学習活動を通して育まれます。

児童生徒がICTを活用することに自信をもち、安心して挑戦できる環境づくりが不可欠です。

(3) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

児童生徒に小さな成功体験を積みせ、その子なりの努力や成長を認めましょう。

自己肯定感、自己有用感、幸福感

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R7)	全国 (R7)	全国との差
小	5	自分には、よいところがあると思いますか。	45.5	47.3	▲ 1.8
中	5		42.9	40.7	2.2
小	6	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	54.6	55.3	▲ 0.7
中	6		53.2	46.6	6.6

自己肯定感、自己有用感、幸福感に関する質問に対して、「当てはまる」「よくある」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて小学校で低く、中学校で高いことが分かります。

校種	質問番号	質問項目	「よくある」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R7)	全国 (R7)	全国との差
小	15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	53.3	54.5	▲ 1.2
中	15		47.5	46.4	1.1

「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに85%以上で、令和3年度以降、徐々に増加しています。

自己肯定感の経年推移

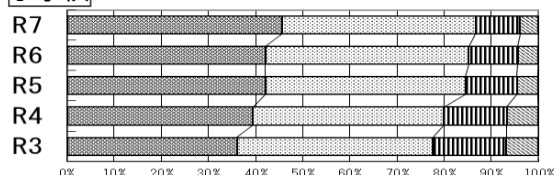
自分には、よいところがあると思いますか。〔児童生徒質問5〕

経年推移

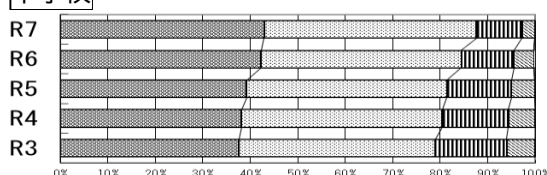
- ☐1. 当てはまる
☐3. どちらかといえば、当てはまらない

- ☐2. どちらかといえば、当てはまる
☐4. 当てはまらない

小学校



中学校



教師は、児童生徒の発想や着眼点等を肯定的に受け止めて、個性を発見し、伸長するように心がけなければなりません。まさに「**褒めて伸ばす**」ことが重要です。児童生徒は、褒められることで、自分への「自信」と次への「意欲」をもちます。こうした積み重ねが**学力向上につながる**と考えます。褒めるときには、**小さな成功体験を積みせ、その子なりの努力や成長を認める**ことなどに留意しましょう。



2 令和8年度の質問調査に向けて、自校で注目する質問を明確にしましょう。

令和8年度は、どの質問に注目しますか。令和7年度の実績に基づいて、目標を何%に設定しますか。その目標値に近づくために、具体的に何に取り組んでいきますか。

自校で各職員が書き出したことを取りまとめ、学習指導部会、学年部会、教科部会、研究推進委員会等で話題に挙げ、さらなる授業改善に向けて学校全体で取り組みましょう。



質問調査の回答分析には、(1)と(2)を合わせた「肯定的回答」ではなく、(1)の「**肯定回答**」の割合に注目しましょう。

(1) 当てはまる

(2) どちらかといえば、当てはまる

(3) どちらかといえば、当てはまらない

(4) 当てはまらない

(2)や(3)と回答した児童生徒が(1)と回答できるように、原因を分析し、個々の学習状況等に即した指導改善を図ることが大切です。

(4)と回答した児童生徒も同様ですが、実際には特別な配慮や支援が必要なことも考えられます。

質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (%)	
		R8 (自校の目標)	R7 (自校の実績)